

週間火山概況（平成 22 年 10 月 29 日～平成 22 年 11 月 4 日）

【火山現象に関する警報及び予報の発表状況】

いずれの火山についても、噴火に関する予報警報事項（警戒すべき事柄）に変更はない。

表 1 火山現象に関する警報及び予報の発表履歴（10 月 29 日～11 月 4 日）

発表日時	火山名	警報・予報	概 要
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表 2 11 月 4 日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）	桜島
	レベル 2（火口周辺規制）	三宅島、霧島山（新燃岳）、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福德岡ノ場
噴火予報	レベル 1（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ケ岳、岩手山、秋田駒ケ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、浅間山、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、口永良部島
	平常	上記以外の活火山



図 1 噴火警報発表中の火山（11 月 4 日現在）

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

みやけじま

三宅島【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

噴煙高度は火口縁上概ね200mで経過した。

火山性地震は少ない状態で経過した。

11月2日に行った現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり800トン（前回10月6日1,200トン）と、やや多い状態が続いている。

三宅村によると、山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では、火山ガスに対する警戒が必要である。

いおうとう

硫黄島【火口周辺警報（火口周辺危険）】

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過している。

国土地理院の観測によると、島全体の隆起を示す地殻変動が2006年8月に始まり、2009年10月頃からは停滞していたが、今年5月から再び現れている。島内南北方向の伸びの傾向は継続している。9月下旬から10月初めにかけて、一時的に島内南北方向の伸びの加速と島の中部での東向きの変動がみられた。

火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、これまで小規模な噴火が発生した島東部の海岸付近、島西部（井戸ヶ浜等）及び南東沖（翁浜沖）では噴火に対する警戒が必要である。

ふくとくあかのば

福岡ノ場【噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報】

今期間、海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁による上空からの観測は行われなかった。これらの機関のこれまでの観測によると、福岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されており、今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

きりしまやま しんもえだけ

霧島山（新燃岳）【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

火山性地震は増減を繰り返しながら、やや多い状態で経過した。11月4日に振幅が小さく、継続時間の短い火山性微動が1回観測された。

遠望観測では、噴煙が最高で火口縁上300mまで上がるのが確認された。

火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性があるため、火口から概ね1kmの範囲では、大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾（火山れき²⁾）に注意が必要である。

1) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風の影響を受ける小さな噴石」のことである。

2) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

さくらじま

桜島【火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）】

昭和火口では11月4日09時26分に爆発的噴火が発生し、大きな噴石¹⁾が5合目（昭和火口から500～800m）まで達した。また、同火口では夜間に高感度カメラ³⁾で確認できる程度の微弱な火映が時々確認された。

南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いており、山体の収縮を示す地殻変動が観測されている。
国土地理院の GPS による地殻変動観測では、^{あいら}始良カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられるが、7月頃から鈍化している。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、大きな噴石¹⁾及び火砕流に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾（火山れき²⁾）に注意が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

3) 九州地方整備局大隅河川国道事務所が黒神河原上流に設置したカメラ等による。

^{さつまいおうじま}薩摩硫黄島【火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）】

火山性地震は 10 月 30 日に 81 回、31 日に 105 回と一時的に増加した。硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態が続いている。

火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね 1 km の範囲では噴火に対する警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾に注意が必要である。

^{すねのせしま}諏訪之瀬島【火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）】

^{あたけ}御岳火口では、噴火が時々発生した。これらの噴火に伴う噴煙の最高高度は火口縁上 400m であった。同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映が続いている。

^{としま}十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、10 月 29 日に集落（御岳の南南西約 4 km）で少量の降灰が確認された。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね 1 km の範囲では大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾に注意が必要である。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

^{いずのおしま}伊豆大島【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

10月30日夕方から31日未明にかけて島北部を震源とする地震が一時的に増加した。30日17時59分には島北部を震源とするマグニチュード2.5の地震が発生し、伊豆大島町元町で震度2を観測した。この地震活動に伴って、体積歪計⁴⁾や傾斜計⁵⁾に特段の変化は認められなかった。その他の観測データにも特段の変化はなかった。

三原山周辺の浅部を震源とする火山性地震は今年7月から、それ以前と比べて多い状態が続いている。今期間は島北部、西方沖、山頂付近及び島東部を震源とする地震が観測された。

GPS及び体積歪計⁴⁾による観測では、2009年秋頃から今年5月にかけて収縮傾向がみられていたが、5月下旬から伸びの傾向がみられる。国土地理院のGPS及び独立行政法人防災科学技術研究所の傾斜計⁵⁾においても、今年5月頃から山体の膨張を示す変動がみられる。

これらと同様の地震活動と山体の膨張は2004年と2007年にもみられ、地下のマグマの活動に伴って発生すると推定されているが、直接噴火に結びつくものではないと考えられる。

三原山の噴気の状態および熱活動には特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

4) センサーで周囲の岩盤から受ける力による体積の変化をとらえ、岩石の伸びや縮みを観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等で変化が観測されることがある。

5) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがある。

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はない。

注) データについては精査により、後日修正することがある。

【参考】 噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル導入火山		噴火警戒レベル未導入火山	
噴火警戒レベル（キーワード）	警報・予報	警戒事項等（キーワード）	
レベル5（避難）	噴火警報	居住地域厳重警戒	
レベル4（避難準備）		または山麓厳重警戒	
レベル3（入山規制）	火口周辺警報	入山危険	
レベル2（火口周辺規制）		火口周辺危険	
レベル1（平常）	噴火予報	平常	

海底火山については、噴火警報（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：平常）で発表する。